



## CONTENTS

- 02 地域保健活動の円滑な推進を目指し  
特定健診・特定保健指導等の実施率を公表予定  
岩手県国保連保健事業推進会議
- 04 第2期データヘルス計画の策定に向けて  
本会保健事業支援・評価委員会も支援  
国保・後期高齢者ヘルスサポート事業説明会
- 06 充実した29年度事業を目指し  
県民一体の健康づくりを推進  
岩手県保健推進委員等代表者協議会「役員会」  
新国保制度の安定運営に向けて  
引き続き関係機関と連携  
岩手県国保運営委員協議会「役員会」

- 07 第三者行為求償事務の基礎を学ぶ  
今後も医療費適正化を推進  
平成29年度第三者行為求償事務初任者(医療保険担当)研修会
- 08 操作技術と知識を習得  
国保総合システム等操作研修  
各種データの抽出方法など学ぶ  
特定健診等データ管理システム担当者説明会

今月の表紙  
「空まで高く」  
盛岡市

性別や年齢を超えてスケートボードの技を競う全日本アマチュア選手権の東北地区予選が5月14日、盛岡市「盛岡南公園スケートボードパーク」で開催され、東北各地から約50人が参加しました。1分間のパフォーマンスでは、小さな男の子も練習してきた技をしっかりと決めていました。

# 岩手県国保連保健事業推進会議

## 地域保健活動の円滑な推進を目指し

### 特定健診・特定保健指導等の実施率を公表予定

本会が実施する保健事業の円滑な推進と、各関係機関・団体との連携を目的とする岩手県国保連保健事業推進会議は4月19日、国保会館で開催された。会議には各関係機関を代表する委員など12人が出席し、本会保健事業など28年度事業報告が行われたほか、市町村と一体となって取り組む第2次健康ステップアップ運動の推進や、市町村のデータヘルス計画に係る取り組みを支援する29年度事業計画など、市町村における効率的・効果的な保健事業の支援に向けて活発な協議が行われた。

「な部分も多い」と述べ、「29年度は制度改革に適切な対応をするために、重要な年であると考えている。本会としては、その動向を注視しながら、地域保健活動の充実化を図るため、必要な支援を行っていききたいので、本日は皆さまから御意見を頂戴したい」とあいさつした。

協議に先立ち、会長・副会長の互選が行われ、会長に久慈市の嵯峨一郎市民課長、副会長に国保金ヶ崎診療所の阿部俊和所長と遠野市の山本真美健康推進係長の2人を選任した。任期は平成31年3月31日までとなる。

### 28年度の支援内容を確認

続けて、座長に嵯峨会長を選出して協議が行われた。28年度岩手県国保連保健活動関係の事業報告では、第2次健康ステップアップ運動について、本会議で決定した支援保険者への支援内

容が報告されたほか、国保・後期高齢者ヘルスサポート事業について、本会保健事業支援・評価委員会の開催状況や保険者への支援内容が説明された。また、保険者が行う保健活動の推進



あいさつする国保連会  
佐藤新 事務局長



### 29年度支援市町村を選定

次は、29年度事業計画について、10カ年計画の最終年度となる第2次健康ステップアップ運動の推進では、生活習慣病予防、ウォーキング等運動、歯科保健の3つを柱に運動を推進すること

に向けて貸し出す保健活動用機材・教材は、19市町村(延べ65回)、3関係団体(延べ4回)の利用があり、27年度より増加していることが報告された。その中で、食育S.A.Tシステムの利用回数が増えており、利用市町村からは「栄養価の表示が分かりやすいため、食事バランスのアドバイスをする側もされる側も相互に納得しながら使用することができた」「自分で良い食事だと思っただけでも、塩分が多いことなどに気づいた」などのほか、「健康づくりに関心な対象者にも有効な媒体だった」とする声が多く寄せられたとの説明があった。

次に、29年度事業計画について、10カ年計画の最終年度となる第2次健康ステップアップ運動の推進では、生活習慣病予防、ウォーキング等運動、歯科保健の3つを柱に運動を推進すること

本会議の冒頭、本会の佐藤新事務局長は「国保制度改革については、新制度施行まで1年を切った。この改革は県が国保財政運営の責任主体となり、運営の中心的な役割を担う。市町村は保険税の徴収や保健事業など、地域におけるきめ細かな事業を引き続き行うことになっているが、先が見えず不透明

とし、生活習慣病予防として、電話による特定健診未受診者受診勧奨、未受診者の情報提供、ウォーキング等運動では指導者派遣のほか、ウォーキング手帳を配布し、地区活動につながる支援に取り組むこと、また、歯科保健チラシの配布や健康まつり等における歯科保健相談等を支援することなどが説明された。

これらを踏まえ、市町村の希望調査結果を基に29年度支援実施市町村を選定した。

## 担当者研修会を9月に開催

次に、保健事業の推進では、これまで11月に開催していた「保健活動研究会」と併せ、9月6日に国保会館で「市町村保健事業担当者研修会」を開催することが説明された。

研修内容は講演と先駆的活動紹介、事例報告等とし、元厚生労働省健康局長の矢島鉄也千葉病院局長を講師に招き、「保険者努力支援制度と糖尿病重

症化予防について」の講演のほか、糖尿病性腎症等重症化予防に取り組んでいる県外市町村の先駆的活動紹介や県内2地区(盛岡地区、大船渡・釜石地区)からの事例報告とした。

特定健診等データ管理業務では、29年度から特定健診・特定保健指導等の実施率を公表予定であることが説明された。これは、国が全保険者分のデータを29年度実施分より公開する予定であることや市町村の要望に応えたもので、公表は11月以降とのことである。

保健推進委員等代表者協議会事業の推進では、第32回総会及び研修会を6月14日に盛岡市「都南文化会館」で開催し、研修会では福島大学非常勤講師の岡田麻紀先生を講師に招き「自分らしく輝くために+10(プラス・テン)」と題した講演のほか、活動交流として県内2地区(大船渡・釜石地区、宮古地区)の事例発表を予定していることが説明された。

また、在宅保健活動者連絡協議会事業の推進では、市町村等の要望に応じた地域での保健・福祉活動の支援を実施するほか、総会及び研修会を5月18

日に国保会館で開催し、研修会では介護予防推進支援事業に関する講演や地区ブロック別グループワークを内容とすることが説明された。

## 10年間の総括となる1年

出席した委員からは、「第2次健康ステップアップ運動の総括の年であり、10年間の活動がどのようにまとまるか楽しみである。また、『健康づくり応援団ハンドブック』は非常に良い内容だが、活用が促進されるよう方策が必要」との意見が出された。

また、オブザーバー参加した健康づくり総合アドバイザーの田沢光正先生は「一般住民に啓発すべきことは、マンネリを恐れず繰り返し行うことが大事。そして、私たちの活動は好き嫌いに問わず、良いところ取りをしていくことも必要になる」と本会議を締めくくった。



座長を務めた久慈市  
嵯峨一郎 市民課長



助言する健康づくり総合アドバイザー  
田沢光正 先生

# 第2期データヘルス計画の策定に向けて 本会保健事業支援・評価委員会も支援

国保・後期高齢者ヘルスサポート事業説明会

本会は5月8日、国保会館で国保・後期高齢者ヘルスサポート事業説明会を開催した。説明会には市町村などの保健事業担当者約100人が出席し、第2期データヘルス計画と保険者努力支援制度、国保・後期高齢者ヘルスサポート事業、KDBシステムに係る留意点などが説明された。また、本会保健事業支援・評価委員会の坂田清美委員長が第2期データヘルス計画策定のポイントを講演し、出席者はポイントの習得に向け熱心に聴講した。



あいさつする国保連合会  
村田保夫 保健介護課長

説明会の冒頭、本会の村田保夫保健介護課長は「保険者は第1期データヘルス計画を踏まえ、29年度に第2期データヘルス計画を策定することとなっている。本会では、26年度より国保・後期高齢者ヘルスサポート事業として保健事業支援・評価委員会を設置し、データヘルス計画の策定支援、個別保健事業の計画策定支援や評価を行ってきた。29年度は委員会の助言のほか、研修会等で支援していく」と述べ、「本日の説明会が第2期データヘルス計画策定の参考となることを祈念する」とあいさつした。

## 国の動向にも注視を

次に、岩手県健康国保課の湊俊哉主任主査は、第2期データヘルス計画と保険者努力支援制度について説明した。

湊主任主査は第2期データヘルス計画の策定・実施に向けたスケジュールを示し「保険者の状況と合わせながら保健部門と協力し、国保全体で計画策定に取り組んでほしい」と依頼した。

また、28年度から前倒しで始まった保険者努力支援制度について、「本県

は平均獲得点数が全国で35位であり、評価指標別にみると、糖尿病性腎症重症化予防対策に取り組んでいる市町村が少なかった。第2期データヘルス計画では国の動向も踏まえて計画策定に取り組んでほしい」と呼び掛けた。



説明する岩手県健康国保課  
湊俊哉 主任主査

## 委員会の助言で支援

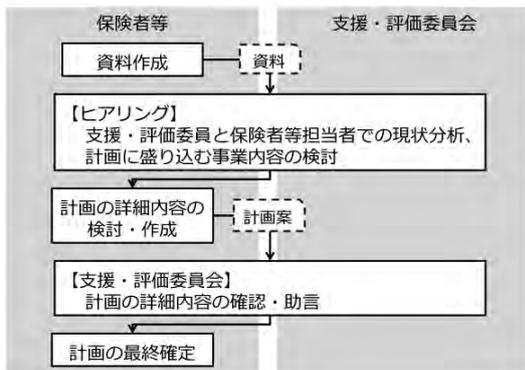
続けて、本会の関川望美主事は、国

保・後期高齢者ヘルスサポート事業について「効率的・効果的な保健事業を行うためには、PDCAサイクルを回すことが必要である。その際、事業の早期から第三者の助言を受けることが効果的だ」と報告があるので、保健事業支援・評価委員会を活用していただきたい」と述べ、今年度の支援内容や申請方法について説明した。

このほか、鳥居奈津子保健係主任よりKDB（国保データベース）システムに関して、今年度より5年を超過するデータが削除されることや途中保険者対応（2回目）により、データの変動が予想されることを説明し、留意点を周知した。

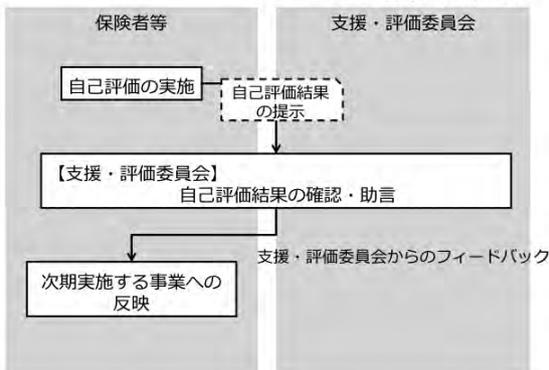
### 保健事業支援・評価委員会による支援等の流れ

#### データヘルス計画の策定支援



#### 個別保健事業の評価

※国保ヘルスアップ事業申請保険者のみ



# ターゲットを絞った現状分析を



講演する保健事業支援 評価委員会  
坂田清美 委員長

最後に、岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学教授で岩手県国保連合会保健事業支援・評価委員会の委員長を務める坂田清美委員長は「第1期データヘルス計画から何を学び、第2期計画にどう反映させるか」と題して講演した。

坂田委員長はデータヘルス計画について「データが電子化され、データ分析に基づく保健事業が可能になってきた。考え方次第では、自分たちの考えで事業ができる時代が来たとも言える。病気で苦しむ人が一人でも減るような方法を意識的に選んだ方が良い」とし、疫学的見地を交えながらデータヘルス計画策定の流れを説明した。

次に、国保中央会が28年8月に実施した「国保・後期高齢者ヘルスサポート事業 データヘルス計画・保健事業等に関する実態調査」の集計結果を示し、全国のデータと本県の市町村国保のデータとを比較しながら、本県にお



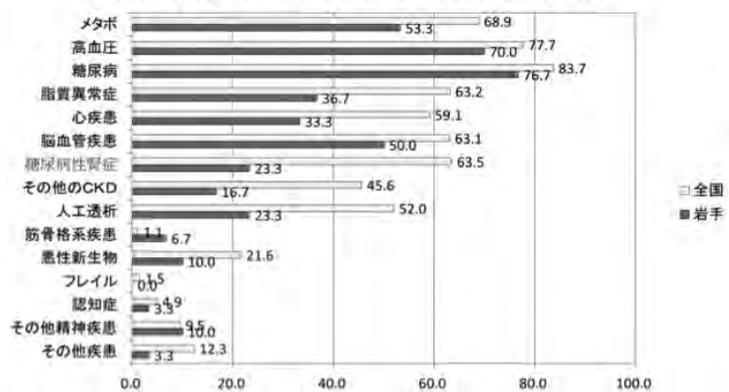
データヘルス計画の策定ポイントなどを熱心に聴講する研修会の出席者

けるデータヘルス計画の現状と課題を解説した。

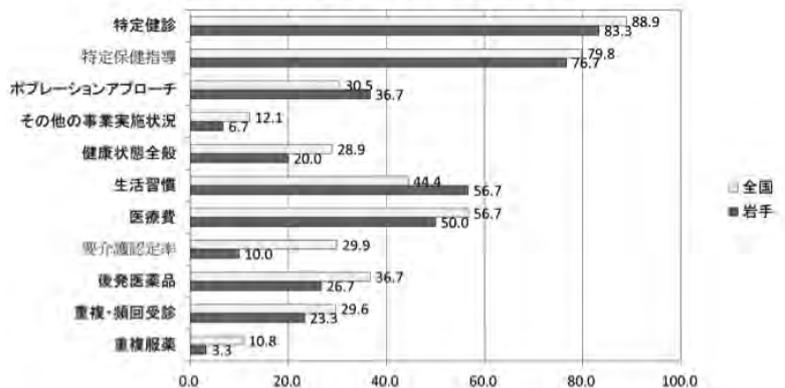
## 事業の優先順位が鍵

この中で、坂田委員長は、本県の保険者が策定したデータヘルス計画は質的データと地域資源の把握状況が低く、事業の優先順位付けも少ないこと

市町村国保データヘルス計画の課題抽出した項目、その1



市町村国保データヘルス計画の課題抽出した項目、その2



出典 国保中央会「国保・後期高齢者ヘルスサポート事業 データヘルス計画・保健事業等に関する実態調査」集計結果より

を挙げ、「全国に比べて高血圧や糖尿病、脳血管疾患を健康課題や目標設定した保険者が少なく、本県の現状を踏まえると、これらの項目に取り組むことが必要」と指摘。また、「問題を理解し効果をあげていくためには、ターゲットを絞ることが必要であり、現状分析が重要となる」と訴えたほか、第1期データヘルス計画策定支援における保険者に行った助言を基に、「①性・年齢別に検査値の平均値・有所見率を全国、都道府県平均、同規模保険者と

比較すること②日本高血圧学会等、各種学会のガイドラインを使うこと」等をアドバイスした。

このほか、坂田委員長は「事業は優先順位を付けて取り組むことが重要である。総死亡の危険因子から見た優先順位は、喫煙、高血圧、運動不足、高血糖、高食塩食、多量飲酒の順であり、本県は脳卒中死亡率が高いことを考えると、特に喫煙と高血圧対策が重要になる」と強調した。

# 充実した29年度事業を目指し 県民一体の健康づくりを推進

## 岩手県保健推進委員等代表者協議会「役員会」

岩手県保健推進委員等代表者協議会（会長・西美代子久慈市保健推進委員連絡協議会長）は4月13日、国保会館で役員会を開催した。会議では28年度事業報告や29年度事業計画が協議され、第32回総会及び研修会を6月14日に盛岡市「都南文化会館」で開催することなどを決定した。



役員会では29年度事業計画など活発な協議が行われた

会議の冒頭、西美代子会長は「本日は総会に向けて、議案審議が滞りなく審議されるよう皆さまの御協力をお願いする」とあいさつした。

続けて、28年度事業報告が行われたほか、29年度の事業計画を協議した。

この中、29年度事業計画では、第32回総会を6月14日に盛岡市「都南文化会館」で開催し、多年にわたり市町村保健事業に貢献した16市町村49人に表彰することとした。

また、同日に行われる研修会では福島大学非常勤講師・やきとりじいさん体操考案者の岡田麻紀先生を講師に招き「自分らしく輝くために+10（プラス・テン）〜ここからだに笑顔を〜」と題した講演のほか、活動を紹介する事例発表は大船渡・釜石地区が行うこととした。

さらに、地域の健康づくりサポーターの育成を目的とした市町村保健推進委員等研修会を9月29日に国保会館で開催することとし、食生活に係る研修のほか、6月の講演に引き続き岡田先生を講師として「運動がもたらすここからからだへの効果（仮）」と題して実技を中心とした研修内容とすることを決めた。

# 新国保制度の安定運営に向けて

## 引き続き関係機関と連携

### 岩手県国保運営委員協議会「役員会」

岩手県国保運営委員協議会（会長・田表一夫久慈市国保運営協議会長）は4月14日、国保会館で役員会を開催した。会議では28年度事業報告のほか、新国保制度の安定運営に向けた29年度事業計画などを協議したほか、29年度の総会を5月19日に国保会館で開催することを決定した。

はじめに28年度事業報告が行われ、昨年11月に開催された国保制度改善強化全国大会では「医療保険制度の一本化を早期に実現すること」のほか、国保の財政措置に関する「平成29年度からの毎年3400億円の公費投入は遅滞なく確実に実施するとともに、引き続き財政基盤の強化に向けた策を講じること」などの10項目の決議について、国会議員に陳情したことなどが報告された。

次に29年度事業計画が協議され、平成30年度からスタートする新国保制度の安定的な運営に向けて、引き続き、各関係機関と連携を図りながら協議会事業を推進することを確認した。

また、本年8月24日に開催予定の岩手県国民健康保険フォーラムへの参画のほか、11月30日に予定されている国保制度充実強化全国大会では、大会決議の実現に向けて実行運動を展開することを確認した。

このほか、第62回通常総会を5月19日に開催し、総会では市町村国保運営協議会の永年功績者11人の表彰を行うほか、国保をめぐる諸情勢に理解を深めるため、総会後に研修会を開催することを決定した。



28年度事業報告や29年度事業計画などを協議した役員会

# 第三者行為求償事務の基礎を学ぶ

## 今後も医療費適正化を推進

### 平成29年度第三者行為求償事務初任者(医療保険担当)研修会

本会は5月11日、国保会館で第三者行為求償事務初任者(医療保険担当)研修会を開催した。研修会には市町村などの医療保険担当者約30人が出席し、第三者行為と損害賠償責任など、保険者における求償事務処理の基礎を研修し、本年度から求償事務を担当する出席者は、複雑な求償事務の知識習得に向け熱心にペンを走らせていた。



あいさつ 国保連合会  
金子仁 総務事業部長

### 第1回目の求償を迅速に

研修会では、▽第三者行為と損害賠償責任▽損害賠償請求権の行使▽第三者行為求償事務の手続き▽第三者行為の把握と保険給付内訳書の記載▽加害者直接請求ーなど、保険者における複雑な求償事務処理の基礎が説明された。

研修会の冒頭、本会の金子仁総務事業部長は、本会における求償事務の取り組み状況に触れ「28年度の請求件数は722件で請求額は約4億5600万円。収納件数は530件で約1億9900万円となった」と述べ、「国では今後の医療費適正化を推進する上で求償事務を重要な要素と捉えているほか、連合会を活用した求償事務を推奨している。これらを受け、本会では29年度から受託範囲を一部拡大しているほか、30年度以降はさらに受託範囲を拡大し、専門知識を有する求償事務専門員を増員するなど、事業の充実を図る予定である」とあいさつした。

この中で、第三者行為と損害賠償責任では、本会の菅沼章求償事務専門員が、被保険者が国保で治療を受ける際の第三者行為求償の考え方を解説し「第三者行為を原因とする傷病は、いったん国保で被保険者のために医療費を負担することになるが、これは本来加害者が支払うべき医療費。国保で負担した医療費は、あくまで立て替え払いしたものであるため、医療費の回収が必要になる。この基本となる考え方に沿って、第三者行為求償事務を遂行してほしい」と依頼した。



講師の説明に熱心に耳を傾ける研修会の出席者

レセプト②保険医療機関への協力依頼③国保総合システム④消防機関との連携⑤テレビ・ラジオ・新聞等による報道⑥交通災害共済の見舞金支払い状況の6つの方法を説明し「被保険者が国保を使用して治療を受けた場合、必ず保険者へ第三者行為による被害の届出を提出することが法律で義務付けられている。被保険者の自主的な届出を促進するためには、広報などを活用した届出義務の周知徹底が重要になる」と説明した。

また、加害者直接請求では、国が示す取り組み強化に係るロードマップを示し、本会が29年度から受託範囲を拡大した「任意保険未加入かつ自賠責限度額超過事案に係る加害者直接請求」に係る事務処理方法や委任解除要件、30年度以降に拡大を予定している受託範囲のほか、適切な費用負担を検討していることなどが説明された。

今後、本会では6月8日に第三者行為求償事務(介護保険担当者)研修会のほか、7月には第三者行為求償事務担当者研修会の開催を企画している。

なお、第三者行為求償に係る諸問題の解決に向け、本会では顧問弁護士による弁護士相談を毎月1回国保会館で開催しているほか、保険者からの要請に応じた巡回弁護士相談にも対応しており、本会総務課の活用を呼び掛けている。

### 届出義務の周知徹底を

次に、第三者行為の把握と保険給付内訳書の記載では、本会の担当者が第三者行為の保険者による発見として①

# 操作技術と知識を習得

市町村等では、資格・給付業務、レセプト点検業務、共同電算処理事業など、国保総合システム等の使用が必須となる事業が多くある。

本会は4月中旬から5月中旬にかけて、保険者業務の円滑な遂行を目的に、国保会館で新任国保担当者を対象とした国保総合システム等操作研修を開催した。

研修には希望した市町村の担当者など、延べ約40人が出席し、▽電子帳票システム▽国保共同電算処理システム▽再審査や過誤調整を含めたレセプト管理システム—などの操作説明が行われ、出席者はシステム操作を実践しながら操作技術と知識の習得に研さんを積んだ。

また、平成30年1月から次期国保総合システムへの移行が予定されていることから、新システムによる保険者業務の実施に向け、今後は新システムに係る操作研修などを開催する予定。



出席者は各種システムの操作技術に研さんを積んだ



説明会には市町村などの担当者約40人が出席した

## 各種データの抽出方法など学ぶ

### 特定健診等データ管理システム担当者説明会

本会は4月28日、国保会館で特定健診等データ管理システム担当者説明会を開催した。

説明会には市町村などの担当者約40人が出席し、本会保健介護課の荒谷弘子主任が、▽特定健診等データ管理システムの概要と留意事項▽委託契約内訳書などの事前準備と被保険者マスタの更新▽共同処理—に関して同システムの操作方法や各種データの抽出方法など、複数の事例を交えながら説明した。

また、関川望美主事（保健師）は、▽費用決済▽法定報告—など説明し、法定報告データの作成について「8月に詳細な実施スケジュールを送付する予定」とした上で、「法定報告データの作成は、本システムに登録されている特定健診と特定保健指導の結果データを、保険者と本会で相互に確認する作業となる。特定健診と特定保健指導のそれぞれで担当を分担している保険者は連携した確認作業をお願いする」と呼び掛けた。

### 6月の行事予定

- |     |  |                            |
|-----|--|----------------------------|
| 5日  | 岩手県国保事業充実強化推進協議会「幹事会」<br>国保地区協議会事務局長会議<br>保健事業支援・評価委員会 | (国保会館)<br>(国保会館)<br>(国保会館) |
| 8日  | 第三者行為求償事務(介護保険担当者)研修会                                  | (国保会館)                     |
| 13日 | 交通事故弁護士相談  | (国保会館)                     |
| 14日 | 岩手県保健推進委員等代表者協議会「総会・研修会」<br>(盛岡市都南文化会館)                |                            |
| 17日 | 審査委員会(～22日)<br>柔整審査会<br>再審査部会                          | (国保会館)<br>(国保会館)<br>(国保会館) |
| 24日 | 地域医療研究会「総会・春季集會」                                       | (国保会館)                     |
| 27日 | 市町村国保担当職員、税務・収納担当職員合同研修会                               | (国保会館)                     |
| 28日 | 国保給付担当者事務研修会   | (国保会館)                     |
| 30日 | 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業研修会                                   | (国保会館)                     |

保険者へのレセプト公開日は6月6日です

**集記**  
**編後**

日本人にとって身近な調味料の味噌。「味噌汁は朝の毒消し」ということわざもあるように、私たちは昔から体に良いものとして味噌汁を飲んできました。今、日本の伝統食である「味噌」の健康効果が見直されています。▼大豆に含まれている抗酸化物質「大豆サポニン」には、老化の原因となる活性酸素を抑える働きや脂質の酸化を抑制する効果があるほか、血流の改善やコレステロール値を低下させ、高血圧や動脈硬化などの生活習慣病にも効果的と言われていました▼また、「イソフラボン」には「骨粗しょう症」の予防効果や染み・そばかすの原因となるメラニンの生成を抑える「美白効果」もあるとのこと▼気になるのは塩分ですが、味噌の塩分は普通の塩分と比較して約30%も減塩効果があるという研究結果も出ています▼さまざま効果がある味噌ですが、私も上手に食事に取り入れて、健康づくりに役立てたいと思います。(熊谷)